

国際競争力強化技術開発プロジェクト 国際競争力強化へ向けたかんしょ生産の安定化と高品質化に係る 系統の育成と栽培技術の開発 【研究概要図】

1. 研究目的

かんしょの輸出先国のニーズに対応した手のひらサイズで良食味の系統や、サツマイモ基腐病に強い系統等を育成することにより、かんしょの輸出拡大の加速化と持続的な安定生産を目的とする。

2. 研究背景

近年かんしょの輸出が急増しているが、需要の多い東南アジアでは日本では規格外となる小サイズのイモが好まれている。国内でも小サイズのイモの消費が伸びることが考えられる。一方、国内の産地では、2018年に日本で初めて発生が確認されたサツマイモ基腐病の被害が拡大している。生産量が激減し、産地崩壊の危機に直面している。



サツマイモの販売風景(左)と基腐病発生圃場の様子(右)

3. 研究内容

- ①輸出先国のニーズに対応した品種を開発するため、過去の選抜系統の再評価も含め、有望系統の選抜を実施する。
- ②サツマイモ基腐病抵抗性に優れた品種を開発するため、交配集団の養成ならびに抵抗性検定による系統選抜を実施する。
- ③つる割病抵抗性DNAマーカーの開発およびサツマイモ基腐病抵抗性遺伝子座領域の絞り込みを行う。



小さいサイズのいもが多い「ひめあやか」の焼きいも

4. 達成目標・期待される効果

達成目標

- ①手のひらサイズで良食味の系統、加工適性に優れる系統等を1系統以上育成。
- ②サツマイモ基腐病に「こないしん」と同等以上に強い系統を1系統以上育成。

期待される効果

- ①輸出向けの高品質かんしょ品種が開発され、輸出拡大が加速化。
- ②サツマイモ基腐病に強い品種が開発され、かんしょ安定供給が達成。

研究代表機関：農研機構九州沖縄農業研究センター

共同研究機関：農研機構中日本農業研究センター、作物研究部門